

日本競馬の現状と課題

【目次】

序章 目的と方法	第5章 聞き取り調査の内容
第1章 競馬の始まり	第1節 地方競馬（特別区競馬組合）
第2章 日本競馬の歴史と比較	第2節 ばんえい競馬（オッズパーク・ばんえい・マネジメント株式会社）
第1節 中央競馬	第6章 中央競馬の分配金と賞金体系
第2節 地方競馬	第1節 分配金の内訳
第3節 ばんえい競馬	第2節 賞金体系の種類と内訳
第4節 中央競馬と地方競馬の比較	第7章 競走馬ビジネス
第3章 競馬場の宣伝方法・入場者数の推移と売り上げ	第1節 種牡馬とは
第1節 中央競馬	第2節 シンジケートとは
第2節 地方競馬	第8章 海外の競馬との比較
第3節 ばんえい競馬	第1節 イギリス
第4章 競馬場の閉鎖要因	第2節 フランス
第1節 地方競馬	第3節 アラブ首長国連邦
第2節 ばんえい競馬	第4節 アメリカ
	終章 日本競馬の課題と結論
	参考文献

【目的】

現在の日本競馬は、大きく分けて中央競馬、地方競馬およびばんえい競馬の3つに分類される。盛り上がりを見せている中央競馬とは裏腹に、地方競馬、ばんえい競馬は存続の危機に直面している。

地方競馬は当初45の競馬場が存在していたが、現在は経営不振を理由に相次いで廃止している現状で、現在は当初の約3分の1にもなる17の競馬場でしか運営されていない。また、ばんえい競馬も同様に、当初4市（帯広、岩見沢、旭川および北見）で開催されていたが、2007年より帯広競馬場のみでの開催という形になってしまった。経営不振の理由として挙げられるのは、レジャーの多様化であると考えられる。なかでもパチンコ、スロットが大きな要因だと考えられる。本論文の目的は中央、地方およびばんえいとの比較、そしてこれらの現状を把握し、問題点と課題について考察していく。

【方法】

関連文献や各統計資料、インターネットを活用し情報収集をした。さらに、聞き取り調査を行い、それらの情報を基に考察する。

【結論】

現在、中央競馬と地方競馬の格差はとてつもなく広がっている。地方競馬はとてつもなく厳しい状況で、イベントなどを催してファンを獲得しているが、どこの競馬場もお互い凌ぎを削っているのが現状である。そこで必要なのが、競馬の1本化であると考えられる。実際に、中央競馬と地方競馬は、法律までもが違い世界を見ても日本だけである。また、控除率の問題も大きく取り上げられている。競馬主要国であるイギリスは19%弱、フランス17%前後、アメリカ（州によっても違う）16から18%で、日本の25%とは比べ物にならない。ファンを獲得するには、来場者の少ない午前中を狙って、新たな馬券の導入（イギリスの馬券プレースポットというもので、1レースから6レースまでの全レースで3着以内に来る馬を的中させる）や、控除率を下げるなどといった措置も必要に感じる。

現在は、中央と地方で交流なども行われているが、ここまで格差が広がってしまった以上、中央競馬と地方競馬ともに日本競馬の発展について深刻に考え、互いに協力しあい遂行していかなければならないと思う。

【参考文献】

- 鈴木和幸『まるごとわかる競馬の事典』池田書店、2000年。
江面弘也『サラブレッド・ビジネス ラムタラと日本競馬（文春新書）』文藝春秋、2000年。
岩崎徹『競馬社会を見ると、日本経済が見えてくる 国際化と馬産地の課題』源草社、2002年。
赤尾秀子『ジョッキー・調教師になるには』株式会社ペリかん社、2003年。
岩崎徹『馬産地80話 日高から見た日本競馬』北海道大学出版会、2005年。
Hilary Bracegirdle, *The National Horseracing Museum*, Heritage House Group Ltd, 1999年。